

神戸新景

No.
2

小山
保





● 木下真珠では、各種メンズセットを取り揃えております。



女が去ったあと、男はひとつぶの真珠に愛を夢みる……。

WHOLESALE & EXPORTER of cultured pearls
 KINOSHITA
 PEARL
 CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7 (北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 無休

東京 / 赤坂・銀座・青山 大阪 / 心斎橋

ラストチャンス
セール

SALE SALE SALE SALE SALE SALE



メンズデミバツフミンクジャケット



カフフルミンクジャケット



何色にも染められた
マーモットジャケット

いつだってトップモードは
ベニーから

期間

2月1日

2月29日迄

LAST SALE

専門店 は あなたの毛皮の主治医です

おかげさまで
創業30周年



最高の品質と信用を誇る毛皮専門店

ニ一毛皮店

神戸市中央区御幸通8-1-6 (国際会館1階)

TEL. (078) 221-3327 (代表) ☎651

FAX. (078) 221-3396 無休

しっとりとした落ちつきがあるアクアスキュータム。確かなカタチ、
コクのある色どりは、まさに大人のために生まれた美しさです。

- アクアスキュータム／ベルト 12,000円
- アクアスキュータム／サイフ 8,000円

■1階紳士洋品売場



2月14日はバレンタインデーです。〈'88バレンタインフェア開催中〉

新しいのに、懐かしい。



DAIMARU KOBE

電話(078)331-8121

スマートに英国を贈る。

人にそれぞれ個性があるように、贈りものにも個性があります。ダンディなあの人には洗練された贈りもの。英国の気品を漂わせる小物なら、あふれる想いをスマートに伝えてくれるはず。ガンコなまでに伝統を守る。その表情は人生をしっかりと生きぬいている男たちに、どこか似ているような気がするのです。



男をさわやかに整えるのが、このトニックとジェル。いつもフレッシュでいてほしい、そんな気持ちでプレゼント。

- アラムス900/ハーバルヘアトニック3,500円
- アラムス900/ハーバルダブルアクショントニック4,000円
- アラムス900/ヘアグリーミングジェル3,000円

■1階化粧品売場アラムスコナー

海に見える白いチャペルでウェディング

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッションブルなブライダルは、恋人たちの夢。
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。
カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

ゴーフル ポートピア88
神戸 風月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2

☎(078)302-5555

本社／〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ゴーフル ポートピア88
ボートライナー中埠頭駅前
(ゴーフル白いチャペル前)





絵／松原 政祐

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

2月号目次 ● 1988・No.322

表紙／小磯良平

セカンドカバ／西村 功

神戸っ子88／片桐千里・花柳芳圭次

ある集い／ひょうこ陶芸会・M・E・N・ず CLUB

コウベスナップ／新年合同祝賀会・国際銀善パーティー

美の小箱／14三村逸子 文・赤根和生

神戸新景／カメラ・小山保

わたしの意見／南波 瀧

随想／柚木学・森幸子・渡辺一生

地域文化論／水谷顕介

地域文化論／宮西悠司

れんさいエッセイ／時実新子 書・足立告陶

KOBE音楽夜話／中西咲子

〈酒特集Ⅰ〉酒対談／桂小文枝・望月美佐

〈酒特集Ⅱ〉神戸酒徒番附退考座談会／西経済人木下

健・寺本漢・重兼豆・東文化△佐藤藤・有井基・武田則明

経済ボケツジャーナル

〈酒特集Ⅲ〉神戸酒処アンケート

〈酒特集Ⅳ〉弥次さん喜多さん・瀬五郎・道中記

キャンペーン座談会／「神戸を市民がつくるアートシテ

ィー」に石阪春生・高崎研一郎・堀尾貞治・増田正和・南和好

ファッションズボット

神戸のお嬢さん／長澤真紀・中村摩美

ファッションウォッチング／「洋菓子天国KOBE」

ふたたびプロフェッサーの研究室／岡田淳

コヒーブレイク

動物園飼育日記（26）／亀井一成

話題のひろば／昇外義氏

の神戸市文化賞の受賞を祝う

スポーツエッセイ／「パラグライダー」中西久二

神戸を福祉の町に／橋本明

出会いの旅／フジタジュリオ

神戸百店会だより

有馬歳時記

モダンカルチャー

シネマ試写室／淀川長治

びつといん

ボケツジャーナル

新連載・伊藤ルミの美男対談／西村隆治

連載小説・夢喰い魚のブルーグッドバイ／釜谷かおる

一千一秒物語／イナキタルホ・銅版画／大月雄二郎

海船港／かどもと みのる

182 米田定蔵・池田年夫・松原卓也

新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000)

3月号

特集

1 瀬戸大橋博'88
2 ならシルクロード博

(カラー企画) ブライダル特集 (夫婦共遊の時代)

(ビッグインタビュー) 井上靖 (作家)

(スターハイライト) 坂東三津五郎

創造の世界 / 人工知能 名医に聞く / 歯の補綴 孟さんの新風俗記 / ミキモト真珠島 大阪の曲がり角 玄妙禅談 / 食べるということについて 男の後ろ姿・わが親父論 カルチャーカレンダー etc.....

関西年鑑 '88 年版

'88 KANSAI YEAR BOOK

見て楽しい読んで面白い知識・情報源。
待望久しき関西のイヤ・ブック誕生!



本書の4大特色

- 1 関西の頭脳と精神を結集して、5つの視点から関西を診断し、未来を展望します。
- 2 ビッグプロジェクトから町づくりまで関西新開拓の全貌を広角レンズでキャッチします。
- 3 関西を創造し、世界へ飛翔する各界リーダー8000人の名簿。これを使えば関西が動かせます。
- 4 従来の年鑑イメージを打ち破ったダイナミックな構成。気軽に読めて、使って重宝なハンドブックです。

B5判 総頁912ページ
特集：カラー口絵 本文8～9ポ
タテ組(3～4段)

発行所 / オール関西株式会社
定価 6,000円

●お問合せ・お申込みは
オール関西株式会社

■内容目次

- 1 21世紀への関西展望
- 2 新関西創造のプロジェクト
- 3 私の関西展望
- 4 自治体の動向
- 5 関西人名簿
- 6 企画広告・コラム

■オール関西株式会社 / 〒530 大阪市北区曽根崎2丁目15-24 曽根崎ビル4F ☎06-363-1255



感性のステージ
ファッションパーク。

新宿・高野

BONFUKAYA

ゲルラン

ココ山岡

VICKY

LEE SOPHY

ELLE

ブライダルサロン・ルーブル

THE CONCEPT

ダイアナ

サイズショップ・ダイアナ

OFU

CLAUDE LEMA

ZAZIE

三愛

FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ センタープラザ3F

営業時間 — am11:00 — pm8:00
PHONE — 078/332-1698



St. Valentine's Day

ほんとうは
ドキドキ...なんです。

ホ...パッケージを
開いた後の顔を想像だけで...

私のバレンタイン
成功しますように.....♡



MAC
SINCE 1895 KOBE

本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895
プレザージュ/トアロード (078) 391-0896
ドルチェマック/三宮センター街 (078) 332-0141

京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857
姫路店/FESTA 2, 3F (0792) 89-4738
宝塚店/宝塚南口サンピオラ3F (0797) 71-4830

☆私の意見

円高不況で 苦しむ海運業を 明るくしたい

南波 暹

△外国船舶協会神戸支部長△



本年1月1日より、外国船舶協会神戸支部支部長に就任したのですが、この外国船舶協会というのは、外国船が入港してから出港までの面倒をみたり、その外国船に載せる荷物を集めたりする代理店が集まって作った協会です。

現在は、私の所属する日本マリタイムエージェンシー神戸株式会社をはじめ、ドットウエル、マークスライン等26社が加入しています。協会の活動としましては、月に1度定例会議を開き、外国の船舶会社と条件交渉をしたり、各社との情報交換を行ったりしています。

一昨年より、皆様も御存知のように円高ドル安が続き今年に入ってから、一時は、一ドル＝一〇円代にも突入しそうな気配があり、私も代理店では大変でした。と言うのも、日本の代理店は、収入はドルで受け取りますので、ドルが安くなれば、それだけどんどん利益率が落ちて行きます。おまけに、向こうは円で支払いするので、上下あわせて、円高の被害を一番被っているのが代理店ではないでしょうか。仕事量としては、3年前も今も変わっていない。つまり、同じ仕事をしていながらも、円高のせいで、どんどん経営が悪化して行く。そのためにも、代理店同志の情報交換により、いかに値上げを押さえて、事務所経費をおさえるかが、大切なポイントになってきます。

そんな四面楚歌の中で、支部長として、とかく暗くなりがちなこの業界の中で、明日を信じて、ムードメーカーになって、明るい雰囲気をつくっていかなくては、と思っています。

日本は四方を海に囲まれています。いくら航空貨物が増えたとはいえ、空から運べるものには限度があり、この先も、日本から海運が無くなることは絶対にあります。ですから、私達も、現在は非常に苦しいのですが、明日は少しでも良くなることを信じ、未来の世代に対して、何としても日本の海運業を守る決意であります。

(談)



St. Valentine's Day

北欧の銘菓

2-ハイク・コンコクト

こんにちは赤ちゃん



北畠利佳子ちゃん / 西宮市岡田山
「私、はづかしがりやなんです」

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柵町1番18号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

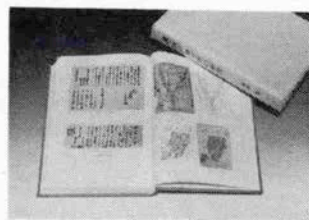
■随想三題

近世酒造史研究

と若林さん

柚木 学

△関西学院大学経済学部教授▽



を辿りながら今あらためて五十六歳という「若さ」が惜しまれてならない。

亡くなられる半年ほど前、若林さんには珍しくわたくしに宝塚市史研究紀要『たからづか』への原稿執筆を依頼された。一度はお断りしたが、再度催促されて書いたのが、「江戸積撰泉十二郷酒造仲間と北在郷」(「たからづか」二号、昭和五九)である。その原稿を嬉しそうにスクーターに乗って拙宅まで取りに來られた姿が、いまでも目に浮ぶ。よほど原稿の集まりが悪くて困っておられたのであろう。しかしそれが若林さんとの最後の出会いとなった。その原稿と交換条件のようにして、今度はわたしが若林さんに無理に書いていただいたのが「宝塚地方における近世酒造業の盛衰について」(『酒史研究』創刊号、昭和五九)であって、本書のなかに収録されている。若き日に酒造史研究で知り合った二人がお互いに論文を書きあって、借金なしにして若林さんだけがこの世を去った。それを思うと、たまらなく胸がしめつけられる思いがしてならない。

このたび若林泰氏の『灘・神戸地方史の研究』が刊行された。しかしこの著作はたんに研究者の研究成果をまとめて出版したということにとどまらない。郷土史研究に一生をささげ、緻密な実証研究で県内外の歴史、考古学研究家に大きな影響を与えながら去る六〇年十一月、急性心不全で亡くなった若林さんの業績をまとめたものである。しかもその企画を「芦の芽」の考古学研究グループの人びとや若林さんを知る多くの人たちが参加して「若林泰氏を偲ぶ会」を結成し、この研究仲間たちが若林さんの研究論文をまとめて漸く日の目をみたもので、それは生前同氏を知る多くの人たちの善意の結晶の賜であるといえよう。一般に街にはジャーナリズムを販や

わす出版物が氾濫し、学術著作の研究書の出版がきわめて困難な今日の出版状況を思うとき、本書が世に出たことの意味は大きいといわなければならない。その内容は、近世の領主支配を村々、藩札と私札、近世海運と兵庫、幕末維新期の神戸、地方の歴史、近代・現代の六甲山、近世・近代の加古郡、宝塚とその周辺などからなり、その研究対象の広がりはそのまま若林さんの研究活動の幅の広さを物語っている。若林さんがすでに灘高時代に主宰して研究者としてのスタートをきったガリ版刷りの研究誌「灘文化」をはじめ、関西学院大学文学部史学科、同大学院時代に書きとめられ、最後は宝塚市史編集に心根を傾けられた死の直前にいたるまで、その研究足跡

■若林泰著『灘・神戸地方史の研究』

お問い合わせ(0797) 22-6921

絵／収種

ある。私は、国際都市神戸の基盤をこの北野に見た様な気がした。

人間が生きてゆくのに一番大切な食生活の違い、当然そこには習慣の違い、文化の違いがある訳である。この様な環境においては、必然的にあまり物事に動じず、又自分を見失わぬ様、自分を表現する心が養われるのではないだろうか。つまり、神戸の人々の間口の広い人間性が私達、外から来た者を何の違和感もなく入り込ませる所以かも知れない。

私は先頃、神戸二紀女流新人展で図らずも「神戸っ子賞」を戴いた。「神戸っ子」というイキなびきがとても嬉しかった。

私もせっかくこちらに住むチャンスを得たのであるから、便乗して広い視野にたってクールな気持で絵の勉強に励みたいと思う。

娘は体型を指して私のことを「育ち盛り」というが、当年とって51才、精神的にいつも育ち盛りでありたいと願っている。

■随想三題

神戸の
におい

森 幸子

△画家△



「えっ／森さん、神戸の方に引越すの?」「行く行く」「遊びに行く」「遊びに行かせてね」と矢継ぎ早に友達の言葉がとんで来た。つまり関東の人にとって、神戸とはエキゾチックな町、おしゃな町、一度行ってみたい町なのである。あれからはや4年の歳月が流れた。

町を歩いていると、モダンなお年寄りが多いことに気付く。洋式の生活がずっと以前から自然に身についていて、さすが神戸という感じである。都会でありながら山あり、海あり、という恵まれた地域であるから、当然のことながら食物は何でも美味しい。ケー丰屋さんとパン屋さん、美容院の数もなかなか多い。私がこちらに来て最初に行

ったところが北野であった。娘と二人、どこか日本離れした情景の続く坂道を、あっちのお店、こっちのお店と、のぞきながら楽しんでいるとき、二人で同時に顔を見合わせ「懐かしい／アメリカのにおい」といってニッコリしたのだった。そして私の脳裏にデトロイトのアパートの廊下が鮮明に浮かんで来たのである。もう15年以上も前になるが、アメリカのデトロイトに1年だけ生活したことがある。当時、そのアパートにはいろいろな国から来た外国人でいっぱいであった。食事時に廊下に出ると各国の様々なスパイスのにおいが充満しており、外国ににいるのだなあとという実感がわいたものだった。まさにその時のにおいだったので



■随想三題

速効性一生流

呼吸法

渡辺 一生

△木彫・はちのす会長▽



木彫・少年とぶどうの顔

『ハッ、ハッ、ハッ』と、うつ伏せになって荒い呼吸をして女が臨終を迎えているテレビ画面を見て、私は『これ人間の生き延びる欲望の原点ではないか。』この欲望を臨終の時ばかりでなく、もし平常今が臨終で生き延びねばと思つて、この呼吸をすれば、少しは生き延びられ、健康になるのでは、と閃いたのです。

実はこれは丸三年前の事です。この臨終の画面を見る前の頃、私の体は大変弱っていました。木彫会の新年会の演壇に上るのにつまずいたり、ふらついたりして会員一同に心配がられ、又歩いていてのふらつき、寝起きの立ちくらみ、それに階段では途中で休まねば上についてからまるでマラソン選手がゴールに着い

た様に息切れし、脚が上がりなくなっていました。これはいけないと思つていた時分に、この臨終の場面を見て気が付き、『よし』今が臨終と思つて荒い呼吸をまず試しに階段を上りながら夏の犬の様に、うつ向いて、ハッ、ハッと肩で呼吸しながら階段を上がった処、上がり切つても今迄の様に息苦しくなくなりました。

『よしそれでは、上でする荒い呼吸を階段の上る前にやつてやれ』と通路の隅で、うつ向いてハッ、ハッと2分位やつて上がって行きますと、体も軽く、上での荒い呼吸も無くなりました。それ以来この一生流呼吸法に自信が付きました。

それでは階段ばかりでなく日常これ臨終と思つてやつて

やれと、椅子に座つて、寝ていて、タクシーの中で、新幹線の中だと、口を少し開き、ハッ、ハッと初めの頃は、肩で呼吸をしていましたが、そのうち腹式呼吸の方が肺活量が多い事を知つたので、それからは腹式荒呼吸法に切り換え、『今が臨終だ』健康法を本格的に始めました。腹式でも、ベルトと腹の間に隙間を作る位の腹の凹み作り、次にベルトに一杯になる様な動きで、早さは心臓の鼓動に合わせて呼吸すれば、三秒休み、又始めといった調子でやります。ですから何処でやつても隣の人も気が付かない位です。一回で二分位、少し休んで又二分という調子です。十分も続ければ、十分休みます。

私はこの呼吸法を、一生流腹式呼吸法と名付け、三年前から少しでも暇があれば、何処でもやつてきました。お陰で腹式に切り換えてからは、胃の調子も大変良くなりました。

この健康法には、薬も器具も場所も不要で、ただひたすら続ける心掛けが必要のみです。

「筑紫・鴻臚館」跡の発見

水谷顕介／都市計画家・建築家▽

1月14日夕「神戸っ子」新年パーティの翌朝、京都大学西山卯三研究室の懇親パーティ参加予定と反対の方向へ帰って、小雨の長蛇の列に加わり、昨年12月末偶然に見つかったこの新年福岡・博多を賑わせてつづけている「鴻臚館」遺構発掘の市民公開に出かけてきた。今回のきっかけは、あのライオンズ活躍の平和台球場の外野土積みスタンドの改修土工事である。球場の西隣りは、昨年の福岡国際マラソンの中山選手優勝の陸上競技場である。戦後この球場や隣接の国立病院、そしてテニスコートなどの建設の度に出現していた遺構を、新施設建設が前提だとして歴史関係者の意志を無視して放棄してきた経由もあったためか、今回をきっかけにしての「全面保存」や古代のロマン再構築の声が高まっている。

発掘現場では、3層の遺構、それに現在の野球場を加えれば4層の人工物が重なっていた。3層の上層は、戦前福岡24連隊の武器庫の礎石など、その下に、福岡城の屋敷跡や割れた瓦の集積など、そして下層が、9・11世紀の年代の遺物をふくんだ遺構としての鴻臚館とほぼ断定されている。下層の表面には、火事で焼けたと記録のある灰層も見えていた。地層は、このあたりでひろがる朱色（ベンガラ色）の頁岩まじり。

出土品の数々も公開資料として陳列されていた。私には、まず基壇をおおったと思われる埴や軒先瓦に興味があった。また、使い疵もほとんどなく美しい越州窯青磁碗や形の面白い浙江省婺州窯系とみられる双耳壺や長沙窯水差し、青のイスラム陶磁、ペルシヤ系ガラス片が並んでいる。わが国初出土という中国貨幣・紀元9年の「大泉五十」については、早速中国から三国時代の交流のしるしだろうという意見がよせられたり、また弥生時代渡来ではないかと議論がはじまっている。

「鴻臚館跡の全容を説明するため全市的、長期的立場にたち、平和台野球場移転をふくめ、壮大な

計画のもとに今後のあり方を検討する必要がある」「舞鶴城跡将来構想委員会（仮称）」を設置してとりくむ」という方針を1月12日に市長発表した。次々と遺跡破壊を容認してきた行政のとりくみとは時代の移り変わりを、まず感じさせてくれる。

福岡市は「海と歴史を抱いた文化の都市」などとあわせて、「活力あるアジアの拠点都市」を新しい総合計画の都市像（昭和62年）として役割づけられている。64年開催のアジア太平洋博覧会の直前の、この遺構出現は、かつての国際交流実証を認識できる場としてあまりにもふさわしい。博覧会場にシンボルタワー（234m）なども建設されるが、急場しのぎの事情や設計者の怠慢などもあって、新しいモニュメント空間にはなりえないだろう。復元までを急がずとも、遺構全域の覆い屋根構築などもふくめた城址周辺のセントラルパーク化、対応しての新しい平和台球場を中心とした都市核形成など、博多湾にひろがる都市構造形成に新しい味を加える埋蔵種の発芽をしっかりと育てる知恵や技法が試されている。

鴻臚館遺構から出土品の数々



英断！ 赤レンガの外壁保存

宮西 悠司 △建築家・神戸の建築を考える会事務局長▽

神戸文化ゾーンのシンボルである神戸地方裁判所が正面、東、西の外壁が保存されることになった。

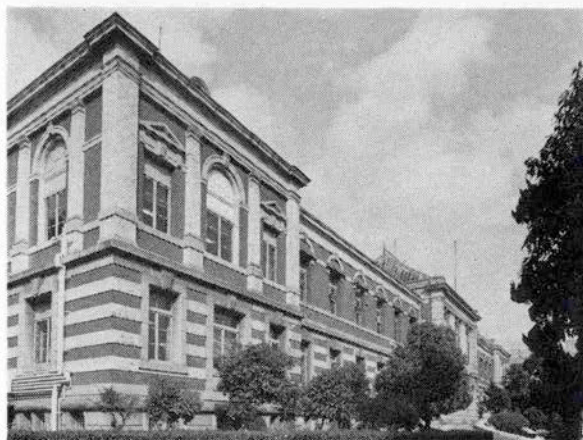
地裁が建てかえられそうだという噂は弁護士会館が裏に新築された頃からあった。旧兵庫県庁舎の保存が決った時、私たちは、次は地裁だということで昭和56年に最高裁に現地保存を訴える要望書を送った。

実に6年にわたって保存をいい続けてきたことになる。地裁があることをPRするためにポスターを作成したり、その重要性をキャンペーンするために「さんちかタウン」で展覧会を催したりしてきた。しかし、昭和61年6月には全面取り壊しという新聞報道があった。その方向で国の調査費がついたという情報も寄せられた。その段階で9割がたもうだめだという気分が生じつつあった。

同じ頃、旧神戸商工会議所が市から民間に所有が移り、これもまた取り壊されるということで、保存をお願いした。それは、地裁も視野におさめながらの、私達のあらんかぎりの情熱をかたむけた運

動ではあったが、昨年9月に惜しまれもなくそのビルは破壊されてしまった。

私たちの落ちはひどく、地裁の保存運動はもっと強硬に取り組ん



外壁保存が決まった神戸地方裁判所

でいく必要があると、新たな戦術を模索してきた。そして、景観権（負けることはわかっているが）を主張して最高裁を訴える裁判を

おこそうということまで考えてきた。その行動を起そうとした寸前に、保存という発表があった。新しい景観権という未知のことに踏みださずにすんだということ、悲願が成就したことの2つに対してホッと、うれしかった。

神戸地裁が保存されることになった要因はなんといっても、その建物が持つ価値、迫力ある存在感ではないかと思う。

あの姫路城ですら一度は取り壊しの運命にあったといったら、誰れでもウソ！と言うにちがいない。しかし、それは歴史的事実なのだ。

今、姫路城を取り壊すといったら、誰でもが、バカな！というにちがいない。赤レンガの地裁は神戸にとって姫路城に匹敵するものである。本場にそれだけ大きな価値を秘めたる建物なのだ。

とにかく、外壁保存であれ建物のイメージが後世に伝えられることは素晴らしいことである。最高裁判所はじめ関係者各位に対して、その見識と英断に心から拍手を送りたい。本当によかった。

そして残った背景には、心をくだき、手をさしのべていただきた多くのさまざまな方々がいたからである。それらの人々と共にこの喜びをわかちあいたいと思っ

■エッセイ

酒修業

時実 新子 〈川柳作家〉

書・足立告陶

酒。あなたと縁なく過ごした五十年の歳月が口
悔しくてならぬ。

酒を飲まぬ家に生まれて酒を飲まぬ家に嫁いで
気がつくとも五十歳になっていたのだ。でも、今か
らでもおそくはない。大いにあなたを愛し、あな
たに愛されて陶然と死にたいものだ。

いとおしや

パチンコ狂い

酒ぐるい 新子

この色紙が新宿の小料理屋の壁にかかっている
そう。男たちは酔眼にこの句をとらえ、

「いいじゃないか君イ、いとおしいってさあ」

「うん、いいねエ、さあ、もつものももつ」

すると中に唐変木がまじって、

「諸君、早まっとはいかん。この女作者は『いと』
つまり、たいへん『惜しい』と言ってんだぞ。わ

れわれ男に酒を飲ますのが惜しいとはけしからん

じゃないか、ウィーッ」

酔眼氏たちはもうろうの中で、しばしこの句に
ついてガクガクとやり合ったそう。

いとおしやは「かわゆい」にきまっている。

私は酒を飲む男たちが好きだ。しんのそこから
かわゆいなァと思う。

そのかわい男たちが、下戸女にじいーっと見
られていたのでは酒も不味かろうと思うからに、

ちびり、くびくび、酒の味も覚えようとしている
のである。

五十を過ぎて天神様の細道じゃ 新子

五十を過ぎて知った細道はしんねりと愉しい。
そうして「酒。」——あなたは想像通り旨かった。

もしかして 椿は男かもしれない 新子

ように、私はホントは酒呑みだったのかもしれない。

酒をたしなむようになって、実はもうひとつの

発見があった。

意外や意外、私という女は無類の男好きだった
のである。

花に目を細め細めて男好き 新子

いい句だ、いい句だ、とても気に入った。

若い時代の、青い果実のごとき新子にはとても
のことに作れなかった句が出来た。この句を残せ
ただけでも酒サマサマである。

私は酒を飲む男たちが好きだ。

女たちも好きだ——と思いかけていたところへ

ちよいといやな事件が起きた。

ついこの間のことである。

場所は三宮。山菜料理「六段」の奥座敷。

私を含めて四、五人連れの中にその「女」もい
たのである。彼女はその半生四十年を清く正しく
生き抜いて聖処女という異名をもつ人であった。
「六段」の誇る銘酒「小鼓」がどんと置かれた。

この酒は口当たりがめっぽうよくて、のど越しがとびきり旨い酒である。

初めチョロチョロ、中パツパ。

彼女は私の横に正座して、ごはん炊きとおなじ要領で枡酒をかたむけていた。

いい酒ありていい仲間あり。私も心ゆるして枡の角からくびくびと飲んでいた。

ところが不意に、巨大なめくじがぐにやりと私にもたれかかってきたのである。

いや、私も酒の一年生とはいえども武士の心得はある。目を据えたなめくじごときにおどろくものではない。(しかしまあ、そのケのない私にとって女の体温とぐにやりは気持ちのいいものではなかったが)私は平気でにこにこしていたつもりである。

すると彼女はまた不意に、私の亭主の手をむずと握りしめたのである。

いや、これも浮世の握手のたぐい。別にどうっ

てことはない。

彼女のピッチがあがったのはその辺りからである。もう、もう、「赤子泣イテモ酒ヤメナイ」の勢い。枡をきゅーッ、あごを拭うてトクトクトク、またもやきゅーッ。一升瓶はついに彼女の股間に抱きかかえられてしまった。

そうして、握る握るわ。

鯨ならぬわが亭主の手をおもちのように握っては弄ぶのである。

見ていて目にあまり、次第に私の胸にあまってどうしようもない。

(ちよいと、いいかげんにしなさいよッ)と喉まで出かかったが、それを言っちゃあおしまいよ。私はくらくらとガマンし、にこにここと苦虫を噛んでいた。

女の酒って、がくん、ぎくんと段をつけて酔っていく。こんな女、まだまだ私、好きになれない。

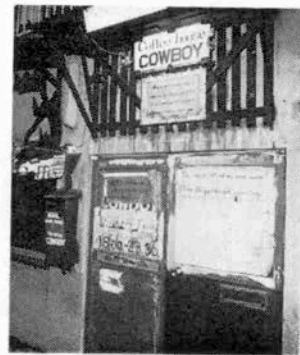
彼女とあ
ぐにや
りて
は
私
の
股
間
に
抱
か
れ
て
し
ま
っ
た
。

新子の句



ROCKO 「カウボーイ」記

「カウボーイ」の閉店を哀しむ
中西咲子
（画家 中西勝画伯夫人）



六甲のカウボーイ喫茶と店主の進藤政行さんについては『神戸っ子・No.288 1985年4月号』に、小関三平先生が「地の調べ」奏るウエスタン仙人」と題して、残るくまなくその全貌を伝えている。

「地の調べ」とは主人の中西勝がこの店を描いた油絵（100号）のことである。4坪のガレージに便所とカウンタ、テーブル、椅子。これを喫茶店・居住・著作の場としていた。営業中は寝具を天井の棚に上げ、客が去ればカウンターの下がベッドになる。暖房と両用のストーブがコヒーや飲食の用を足すので、なつかしい煤が日を持たずして、室内のすべてをヤニ色のムードに変えていった。棚の西部小説の原書や店主の爪、かき鳴らすギターや手風琴の指の当たらない部分や、ふとんなどまで。進藤さんは此処で、日に平均五人位の客に、西部音楽つきのコヒーを提供し、残る一切の時間を費して「大草原の小さな家」など西部の本を、何種かの辞書を相手に読破し、翻訳しながら17年の歳月をすごされた。

小仁は山に隠れ、大徳は朝市に在るというが、進藤さんは六甲市中に在って逃げも隠れもせず、朝市にはめつたに現れなかった。大徳の親分をもって任じている主人の勝さんは、縁あってここに通いつめ、日銀の支店長からタクシートの運転手まで、とりわけネクタイに縛られてる人や、社長とか「長」のつく人ほどほっておけず、強制的に連行した人々は、老若男女百は下るまいと思う。店での会話を記しておく。

——中西「酒はおかへんのか、カウボーイやのに」進藤「カウボーイは酒は飲みません。牛飼いは激しい労働だし金もない」中西「街へは行かんの」進藤「二年たつと辞典がぼろぼろになるから丸善へ買いに行く。その他は用がないから行かない」中西「電話をつけろよ、友達を呼んでやるから」進藤「来る気になってない人を電話で呼ぶなんて、失礼です」中西「なんで洗濯物をコヒーわかすストーブの真上に干すんや」進藤「よく乾くからね」中西「汚ないんとちゃうかな」進藤「洗ってあるから清潔です」中西「新聞で鼻かんで、又開いて見るんはオッチャンのクセか？」進藤「ちがうノ風邪の癒り具合を見て。大切なことでしょう」中西「コヒーを値上げしたね」進藤「一日五人の客だから、四百円にしないと食えないですよ」中西「二紀展見に来てよ」進藤「忙しいからダメです」中西「僕がて忙しいが、しょっ中ここへ来てるのに」進藤「来てくれと頼んだ覚えは一度もありませんよ」etc——

ある夜、扉を開けると真暗い部屋に手元電気だけつけて、何か真剣に仕事をしていた。壊れた旅行時計を空缶を切って作った枠にはめて、小さな振子をつけていたのだ。爾来、この時計はいつも店の隅で、かわいらしい宇宙人のような姿で時を刻んでいた。主人はこれが欲しくてたまらなかったが、閉店の前に誰かが一万円で買ってくれた由で、残念と同時に、彼の人知れぬ一面を愛する人が、他にも大勢いたことを知って喜んでた。



▲ギターをかき鳴らす進藤さんと、右手前から筆者中西咲子さん、角田さん、中西勝さん
(タイトル内) カウボーイの玄閑

だが、たった一度彼を大変怒らせたことがある。同行した女性を「この女独身やで、どうやヨメはん」と冗談言った時だ。熊のように歩き回って「人には好みというものがある」と青くなつて怒つた。又、めずらしく生き生きとしているので尋ねてみると今日丸善で、念願の英々辞典を買ってきたとのことであつた。辞書といえは彼のものはどの頁も赤線がいっぱいで、煤によこれ、ポロポロにちぎれかけていた。それは、ひたむきな執念を滲ませた精魂こめた宝の品で、勉強ぎらいな主人には奇蹟と見え、また視覚的に確かに美しいに違いなく、喉から手が出るほど欲しいのだった。ある日覚悟を決めて、おそろおそろ一万円で売ってくれと言つと、一万円なら新しいのが買えるからいいと、あっさり譲ってくれた。持ち帰った主人はチュニジアの古陶と並べて「同じ美し

さだ!!」と叫んで、ひとかたならぬ喜びようだった。翌日進藤さんは新しい辞書を見せ、ちぎれていた残片を数度にわたつて渡し、最後に、僕の毛もあげましょかと枝毛を紙に包んでくれた。主人は気色悪い、要らんわいと怒つたが、なぜ毛をくれようとしたのか今もってわからない。獣の臭いつけか、友情の証なのか。

あるおだやかな初夏の夕暮れ、斜めの残光が厄除八幡の森の方から路地にさしかけていた。ただ一つの突き上げ窓のそばの文机に向かって、進藤さんはひっそりと本を読んでいた。閑雅な風情だった。徒然草第四十三段、春の暮れつきた：心にくくのどやかなるさまして：ふと浮んだその連想を、進藤さんを知る人々は何と言うだろう。私達は入らずに去つた。

一昨年まだ半袖の夏、進藤さんは頭に布を巻き、冬服で寒い寒いと言っていた。顔色も悪く、心配だった。昨年はこちらも個展で忙しくしている間に、彼は眠れないから店を閉めると宣言を出していた。十一月三十日の最後の晩は寒い夜だったが、店主を呆れかえらせるほど大勢の客が店に溢れ、なぜか顔立ちの良い若者達のカップルが「なぜ最後にばかり来るんだ」と怒つてばかりいる進藤さんを小羊のように優しい目で眺め、カップの足りないコーヒーをじっと待っていた。聖夜の客という顔をして。

十七年前、進藤さんから貰ったボールペン平書きの開店通知は、今も強い印象で脳裏にある。誰とわからぬまま、簡素な文面と生真面目な文字に妙に気を魅かれて、初めてカウボーイを訪ねて行ったその日のことも。